

二〇一五年九月一五日(参加者一五名)

秋愁や撫でるばかりの力石 うつぎ
うららかや宮に犬用手水鉢 うつぎ
色鳥来千木より高き神の杜 うつぎ
力石少し離れて蟻の道 うつぎ
拝殿へ磴高飛びに道をしへ うつぎ
そこここに漣駆けて池さやか 明日香
色変へぬ松の根方に力石 明日香
浮御堂水かぎろひて池さやか 明日香
金秋の葉洩れ日を浴ぶ力石 菜々々
玉垣の外にささゆれ萩紅し 菜々々
水引草即位記念の碑ほとりに 菜々々
連山の稜線著き秋の晴 わかば
秋茜湧く境内や力石 わかば
秋天へ緑青の千木尖りけり わかば
青天の宮わがものと秋あかね ひかり
釣果などどうでもよろし池小春 ひかり
小春日の池塘太公望が占む よし子
神の木の枝のそよぎも秋の声 よし子

爽涼や池に浮きたる四阿に 満天
秋蝶のつかずはなれず力石 満天
みころもに露したたりぬ磨崖仏 宏虎
池の面駆けてはもどる秋の風 宏虎
この庭のもみぢ愛でよと野点傘 ぼんこ
樹下さやか謂れ札たつ力石 ぼんこ
海光に黄金波の棚田かな えむ
稲の香をまとふ農夫や里のバス えむ
投句箱溢れんばかり獺祭忌 かなかし
奥池の面に飮すつくつくし せいじ
道をしへ大ジャンプして急かせけり 小袖
太公望女も紛る池小春 有香

定例会の選

二〇一五年九月一五日(参加者一五名)